

第4回（令和4年度第1回）府中市生涯学習審議会会議録（案）

1 日 時 令和4年5月24日（火）午後3時30分～5時00分

2 場 所 府中市役所北庁舎3階第1会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員13名

榎本成子委員、大谷久知委員、木内直美委員、佐野洋委員、島田文江委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、内藤大輔委員、中村洋子委員、長畑誠委員、松浦浩司委員、松木博子委員、福田豊委員、
※岩久保早苗委員、藤原美江委員欠席

(2) 職員7名

佐藤文化スポーツ部長、鈴木文化生涯学習課長、楠本文化生涯学習課長補佐、武居生涯学習係長、山本事務職員、竹川事務職員、齋藤事務職員

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

- ア 資料1 第3回府中市生涯学習審議会会議録（案）
- イ 資料2 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会議案書
- ウ 資料3 第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会
- エ 資料4 審議の方向性・内容について

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

(3) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について

会長から4月23日（土）に開催された定期総会と講演会について報告があった。

5 審議事項

(1) 「学び返し」を進めるための地域人材の活用について

会長： 昨年度は会長市としての事業もあってなかなか審議事項について整理する時間がなかった。また事務局も新しい体制になって、あと1年しかない中でもう1度整理し、残りの審議会で何を話していきたいかを確認をしたいと思う。もちろん今まで話したことが無くなるわけで

はなく、こちらもちんちんと生かされていくが、これからの審議会の在り方について確認したい。事前に皆様に生涯学習推進計画の抜粋をお送りした。今回の諮問事項が「学び返しを進めるための地域人材の活用について」で、生涯学習サポーターについて論点を絞ることになっている。この諮問事項は生涯学習推進計画の基本施策1から3の全部に関わってくるものであるが、特に基本施策2にあてはまる。基本施策2で「誰もが活躍できる環境づくり」の中に、「学び返し」という府中市独自の理念を充実させ、より実現させていくということが書いてある。次に目指す姿として、年齢や性別、就労の有無などにかかわらず、全ての市民が、その人ごとに得た知識や技能を求めて人々に還元する生涯学習活動に取り組んでいる。そして生涯学習活動を基盤とした本市全体の市民協働が活性化する。「学び返し」の理念の下、生涯学習活動を経験した人が、そこで身につけた知識や技能を、豊かな地域づくりへ還元している、そういったやり方を目指すとなっている。その中の施策の方向性の中に、基本施策1から3が挙げられていて、基本施策1から3のそれぞれの重点施策として、生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施、生涯学習を地域づくりにつなげる人材の育成や登用、市民が活躍できる場の拡大ということになっている。そして、生涯学習サポーターというのがそれぞれの施策のなかにも取り上げられている。生涯学習サポーターとは、府中市生涯学習推進計画の基本施策2の重点施策の生涯学習を地域還元につなげる人たち、生涯学習を学び返しとして地域に還元していくという人たちが、まさしくサポーターである。様々な知識、技術、経験を持っている人が生涯学習サポーターとして登録しているが、生涯学習の1つの考え方として、市民の中でこういうことを学びたいと思った人達が、一緒に学んでみようとする自主的に学びあいの場がたくさんできているというのが、府中市における学び返しという意味ではないか。他の市だと、市が指定管理者に委託しているが、生涯学習センターで主催をして、講座をやる。場所はあるから自由に使ってくださいの2本だてのところが多い。府中市の場合はそれだけではなくて、サポーター制度を作って、いろんな知識や技術を持った人をぜひ活用して自主的に学習してもらい、市が講座をやるだけでも場所の提供をするだけでもないという点が特徴的だと思う。この特徴的な制度をより良くしていくかが、この審議会での話し合いになればと思う。講座そのものについて考えるの

ではなく、知識経験をもった方を活用して、自主的な学びの活動をどんどん増やしていく。地域の発展や豊かな地域になっていくのではないかと、学び返しの理念にかなっているのではないかと、思っている。社会教育の大きな流れのなかでも、戦後すぐに民主主義や地方自治や人権などの概念がなかったところに入ってきて、みんなの共通した課題があったから、みんなで学びましょうという時期があり、豊かになってからは、自分自身の人生を豊かにしようといろんな講座が増えた。しかし、それだけでは今はだめで、地域の中で学びたいというのが、単に自分の人生を豊かにしたいというわけではなく、よりよい地域にしたい、問題を解決したいという人たちの動きを活性化するために、生涯学習サポーター制度がある。生涯学習サポーター制度をどのように良くしていくのかというものを今回の審議会でも答申を出していく。今の話について、ご質問、ご意見をお願いしたい。

委員： 生涯学習サポーター制度を利用するのに、ハードルが高い。具体的に勉強したいものがあつたとき、どうやってサポーターを使ったらいいか。個人として使おうと思うと費用の面や申込方法が難しい。生涯学習センターで講座を申し込んで受講しているうちに、自分たちで勉強しようかと自主講座を開くやり方もある。一個人がサポーターを使ってやろうというのが、想像できないのが課題になる。もう1つは、登録者のテーマが受講者の立場から見ても必ずしも十分魅力的なものでは無い様に感じる。内容が市民ニーズを満たしているのか検証が必要。この2つの問題点を解決していく必要があると思う。

会長： その通り。その点についても話していければと思う。

委員： サポーターの利用は個人でできるか。

会長： そこが大事なポイントだと思っている。個人の利用ができないのが大きな課題だと思っている。個人が過去の戦争のことを知りたいと思ったときに、ひとりで勉強をするなら本を買ったりして読むけれど、何人かで地域の人で学びたいと思ったときにはできない。サポーターにその話ができる人がいないという問題があつて、さらに個人では申し込めない。そこが問題である。個人ではサポーター制度を利用できない

委員： サポーター利用の方法というところに、掲載してはどうか。

会長： すでにいろんな経験をお持ちのサポーターはいるのではないかと。そういう方を活用するにはどうしたらよいか。

委員： サポーター登録募集はどうやっているのか。

事務局： この制度が始まった当初どういった方法で募集したかは不明だが、現在は特に広報に掲載したりはしていない。HPなどで募集はしている。

委員： WEBサイトに募集しているだけでは消極的ではないか。集まらないのは当然ではないか。

会長： 今回は府中市生涯学習サポーター制度のリニューアルを提案するという考え方でいいのかもしれない。

委員： 全体的な印象で、サプライサイドのロジックが先行していて、提供するから利用しろというようなものが優先で、デマンドサイドの話が出てこないのが不思議である。ファシリテーターにしてもサポーターにしても、作るけれども利用が少ない。根本的な問題はそこにあると思う。

会長： どういう人たちに求められているかということと、個人でそれを希望したとしてもできない。では、どうやったらよいか。先ほどの資料4の話だが、①が広く知ってもらい、②が今日は話が出ていないが、質を向上させる、書いてあっても実際どうかはわからないし、頼みにくい。③がさらにデマンドサイドにもつながってくるが、必要とされる人材はまだまだいるのではないか。それをどう起こしたらよいか。そして、4番目として、サポーターが活用できる場をどうするか。要するに個人では利用できない。例えば大学でも性別違和など、さまざまな物事に関する問題があって、個人で知りたいものでもあるが、地域で学んだ方がいいものもある。もしそこにそういった悩みを抱えている方がいたら、地域で支えられるかもしれない。個人で利用したいけど出来ないからどうしたらいいかという話になる。

委員： 「この指とまれ」と学校ではよく言う。やりたい人が手を挙げていて、5人集まったから、やりましょうかというようなニュアンスである。

会長： 「この指とまれ」ができて、この指にとまれるような仕組みを作ればいい。

委員： 生涯学習サポーターとNPOはどう違うのか。登録制度とあるが、フリーランスの営業名簿とどう違うのか。自分ができることが羅列されており、自分ができることの登録に過ぎない。これを登録しても市民に全部配られているか、というところが違う。文化センターに置いてあつ

て、文化センターで講座をしようとか、自治会で誰かを呼ぼうとかそういうニーズがあって初めてこれを見る。節約を考えたらこんなリストをばらまく意味はあるのか。個人では呼べないのだから。結局自分でやっている講座に呼ばれてしまう。ロジックで結ばれていない曖昧さがあってとても気持ちが悪い。例えば社会教育、生涯学習の在り方も課題解決型の意味合いが大きくなっている。このリストにあるのは、ツールを提供しているわけではなく、文化とか趣味とかそういったもの。使う場を提供できるような人が、生涯学習サポーターだったら理解できる。たとえば、現在のホットなテーマがあり、それを学問的に勉強として講座を成り立たせるお手伝いができる人がいないといけない。社会にある福祉の問題などを、生涯学習の分野で生涯学習サポーターを介在して解決していく方法と、NPOなどがWEBなどに示している方法と、社会福祉協議会が包括支援センターなどを使いながら支援している方法と、どう違うのか、同じでもいいが、きちんと考えながら対応していく必要がある。

会長： 社会福祉協議会がやっている活動などはテーマが決まっています、府中市が今年は何が必要だからやる、NPOもNPOごとにやりたいことが決まっています。社会教育や生涯学習というのは、制度化されている学びの場ではなくて、住民の中から自発的に出てきたものを、ではみんなで学んでみませんか、というのが生涯学習である。

委員： 立ち話をされていて、テレビで色んな放送がある。テレビも相互放送になって、コメントなどが表示されるようになってきている。しかし、自分の身近なところで話したいとなったときに、生涯学習サポーターやファシリテーターが、最新の情報をそうやって拾っているか、なかなか拾えていないと思う。もっと制度的に拾えるような窓口が、市のHP、生涯学習センターHPのなかでもインタラクティブなページなどがあってもいいと思う。

委員： 生涯学習サポーターの一覧が、フリーランスの営業リストに似ていることの是非については前回議論しているので繰り返さない。サプライサイド的な発想しかなければ、リストは長い方がよい。デマンドサイドの分析や構造の検討があってはじめてどのような講座をひらくべきか、そして、そこに適した人をどう探してくるかという話に繋がるので、デマンドサイドの議論をしないで、単にこのリストがフリーランスの一覧表でもあまり意味がない。今のままであれば、リスト

は長くても構わないと思う。

委員： サポーターに登録できる人材はたくさんいるが、構えてしまっているのではないかと思う。府中市には、場所はある、機会があればお世話したいと思う人はいる。でもどうしたらいいかわからない、では仕掛けを作ってやるのはどうか。以前ある女性の体操グループでは、旦那さん方にグループを作るような仕掛けをしたところ始めた例がある。また、市民ジュニアスポーツ教室に、学校の部活を全く経験のない先生が、子どもたちと先生と一緒に参加した。気軽に参加しやすいような工夫をすることはどうか。

会長： 様々な知識や経験のある方がこういうテーマで載ることで、市民同士の学び合いが広がる。そのためにはもっとリストが長い方がいい。教えるのはある程度技術があるので、それができるような技術を持ってほしいという話があるが、それに追加して出てきているのが、学びたい人たちが学びたいことを学べるようにする。リストになれば難しいし、個人ではそれができないから、この指とまれ的に集まってもらう必要がある。それから、今の世の中にはこういう学びが必要だから、そういう人を掘り起こしましょうという話になると思う。

委員： 府中市は文化の薫り高い街づくりを標榜しているのだからそれに見合ったテーマについて生涯学習サポーターを掘り起こして、市民に提供して欲しい。市民の側もこういうことを学びたいというのがあって、両方の情報をいかにストックして、それを管理するか。府中市がやってもいいし、生涯学習センターに委託してもいいし、そういうことを進める主体が必要。今はそういうことを担うところがはっきりしていない。市民のニーズがあっても人材があっても、それを活用できない。組織などを作ることが必要。広報の仕方については、市の広報やネットでも市の情報は手に入る。

委員： ニーズという点では、本当に生涯学習サポーターに対するニーズがあるのか分からない。コンベンションリンケージ的な講座であれば、アンケートやフィードバックで市民の方のニーズが必要であると思う。それ以外の掘り起こしや、社会的に必要とされている事柄について講師をお願いして募集するような講座をできていない。それに対して、どういった策ができるかという点、前期の審議会でも生涯学習の需要ポイントの1つが地域力の醸成である。そのためには問題解決力のための、コミュニティスキルをつけることが重要だという結論に達し

た。これは重要な議論であり判断だと思うので、それを踏まえたうえで、一種のフィードフォワード（前制御）のようなものをかけてみると良いのではないか。つまりコミュニティスキルコンセプトに基づき、プロトタイプの講座編成をトライアル的にやってみるわけである。そうしないと、前に進まないのではないか。

会長： 学び返して生涯学習サポーターがテーマなので、すでに技術や経験を持った人たちを、それを必要とする人たちにつなげていく話なので、ニーズを決めるわけにはいかない。

委員： 確かに、はっきりこういうテーマで学ばなければいけないというニーズを決めるわけにはいかないで、そこは曖昧というかゆるく設定する必要がある。フィードフォワードをかけてその反応に応じて変えていく必要がある。フィードフォワードの前提として、問題解決力をつけるためのコミュニティスキルを醸成するためには、どうしたらいいかというリサーチが必要である。地域にはどういう問題が起こっていて、どういう力を市民が欲しがっているかということは、具体的な社会福祉協議会や自治会連合会とかそういうところと、協働するとたくさん出てくると思う。デジタル町会、デジタルコミュニティ関係でたくさん出てくる。地道だけれどもパワーを必要とするような作業が必要になる。

会長： 地域にはどんなニーズがあるのか把握したり、それに対応する人材を掘り起こす必要がある。デマンドサイドのことを考える必要がある。地域に還元できるような人材を掘り起こせる仕組みを作るにはどうしたらいいか。地域のニーズをしっかりと掘り起こせる制度設計が必要である。

委員： 生涯学習サポーターの募集を市報などにのせるのはどうか。声かけの仕方について、大切かもしれないが、在職中に培ったノウハウなど地域に還元してはどうですか？とか、今のシニアたちは貢献したいという気持ちが強いからいいかと思う。

委員： 幅広い年齢層に生涯学習を考えてもらうとなると、例えばリサちゃんショップでベビーカーがありますかとか、直接書いてやり取りができたりする。入口がもうちょっと入りやすいように、ネットが使えない人などに、もっと幅広くというならば、伝言板のような形で、入口を分かりやすくしないといけない。頭に入って来ないなと思うし、みんながという面で考えた方がいい。希望している知識をネットなどで

調べられるものでもいいが、ネットを使えない人が年齢関係なくいる。街の掲示板などでもっと気楽にやらないと広がらない。講座とかお勉強などと名前がついた時点でもうやめた。というようになってしまふ。今まで人生を過ごしてきて、みんなにこういうことを伝えたいとか話したいとか思っている人もいると思う。いま第三者的な傍聴人がいて、話を聞くような方がいたら、ずいぶん難しい話し合いの場になっているなと思うと思う。もう少し広い視野で話してみた方がいいと思う。

委員： 伝言板毎月集計するのというような感じ。

委員： リサちゃんの掲示板は1週間で消す。まず、いろんな人の興味をそそることが大事。

委員： 例えばコロナのときに「教えて尾身さん」というような、WEBサイトを開いていたように、府中市や生涯学習センターにおくのか。データベースをフレンドリーな形に直すのもいい。生涯学習に関わる人は大人しかイメージしていないが、もっと若い世代でもいいはず。こんなこと教えてくれる大人はいないかな。学校の先生ではなく、野球のコーチではなくて、違う大人がいらないかというところも、吸い上げられるような仕組み。スマホで手軽に打てるようなものがあつたらいいと思う。接点がない、別々に話をしているような感じ。つぶやくだけでもいい。府中市のHPに何でも乗っけていいような掲示板があると、情報共有ができる気楽な受け皿があってもいいのではないかな。

委員： 学習とか、もうこりごりだと思っているひとに迫るのはしたくないし、学習という名前自体よりも、「楽しい」とか「役にたつ」というような活動であるという印象も大事。

委員： ①広く知ってもらおうというのは制度の話、②質を向上させるのは生涯学習サポーターの資質の問題、③はサポーターを増やそうという話。4番の結論がでていないと思う。生涯学習推進計画にヒントがあるとおもう。P37のアンケート結果で「生涯学習活動の成果を自分以外のために活かすために必要なこと」の2番で「知識・技能や経験を活かす人と活動の場を結ぶ人の充実」とある。この人がサポーターを表しているのではないかと思う。こういうところを強調していったらいいのではないかな。

会長： 4番目は市民の側、デマンド側のこんな学びのことを知りたいんですけど、それを生涯学習サポーターと結び付けていくのかということ

が、4番目の課題である。

委員： ウクライナとロシアの関係を知りたいと思えば、まずネットで調べる、私の年代的にまずそこから入る。Youtubeなどにも専門的な人が開設している動画がある。もっと知りたいなと思った人は本屋さんに行って専門的なものを探す。その後に専門的な講座がないかという順番となると思う。私であればネットで調べてそれで満足しちゃおうと思う。府中市には生涯学習サポーター制度があって、人数を集めなければいけないと思うとハードルが高い。PTAをやっているが、部活の顧問の先生が多忙で疲れ果てているという話も聞く。そういったところに、専門的な、スポーツだけでなく、文化的なそういった面もアピールしていけば、利用につながるのではないかな。

会長： 大人に限らず、若い方も対象に広げていくのがよい。生涯学習の特徴としては、1人ではなく、複数で学ぶ、他の人と話して、そういう考え方もあるのだなと変わった見方も出てくるかもしれないのが、生涯学習のよさだとも思う。

委員： 生涯学習サポーターが出てきているのが、「『学び返し』を進めるための地域人材の活用について」であるが、学び返しという言葉がまだ多くの人に浸透していないように思う。テレビ番組の中で「学び直し」という言葉を耳にしたが、それは自分が学び直すことまでで、府中の「学び返し」は学んだことをさらに皆さんに返していくことであるということを改めて感じた。生涯学習サポーターについては、登録の課題のほかにも、利用者やテーマについての課題もあり、まとめていくのがたいへんな課題だと感じた。

副会長： 人材発掘の点で気が付いたところとしては、人材を掘り起こせば直ちに活用できるのかという点が気になった。現代的な問題のニーズに合う形で、その人材の方が学んだ知識が再形成されているかどうかはわからない。最初の議論にあったようにニーズ側のことがらと、提供側のことがらがあると思う。地道かもしれないが人材発掘し再教育して、ニーズに合うように提供の場を作っていくことが求められると思う。議論は一般的だが、問題は個別に起きており、その問題に対応するために委員の皆さまのお知恵を拝借したいと思う。具体的な解決策を今後はいただきたいと思う。

会長： 副会長の発言のとおり、問題点については出ているので、今後はその解決に向けた部分について議論していきたい。本日の内容を簡単に

まとめると、今年度の審議のポイントとして、書かせていただいた、知ってもらふ、質を向上させる、人材を掘り起こすと、4つ目としてアクセスの問題がある。この点について、課題の整理をしようと思うので、次回から我々として、この問題について、どんなことを提案できるかという事を話せればと思う。

6 その他

次回の審議会の開催時期について、令和4年7月下旬に開催することで、了承を得た。